

《資料紹介》

イチョウ巨樹の乳信仰  
—歴史研究の資料に関する課題—

児 島 恭 子

はじめに

本稿は、科研費基盤研究（C）「イチョウ巨樹の乳信仰に関する歴史研究」（研究代表者 児島恭子）による研究として、これまでに行った現地調査と文献調査の一部を資料紹介の形で覚書としたものである。イチョウ巨樹の乳信仰については、「乳銀杏」という民俗語彙で民俗学においては知られている。筆者は近年、日本における巨樹の存在を考察するなかで、人間の営為としての巨樹の残存を見てきた（児島2016a）。木に対する信仰は地球上に普遍的に見られるが、中国や韓国には子孫繁栄の象徴とされることはあっても乳信仰はなく、日本独自のもののようである。イチョウの巨樹がある現地に行って調べ、文献を探していくと、民俗学で知られていることの不確かさがわかるとともに、人間と木の関係を歴史学的に考察することの必要性が見えてきた（児島2016b）。本稿では、その点について記し、2017年時点で把握している乳信仰のあるイチョウ巨樹の簡単なリストを掲載する。

1 乳信仰

(1) 乳信仰とは

育児の最初の段階において、母親にとってもっとも気がかりなのはじゅうぶんな乳の出であった。不運なことにそれに恵まれないこどもは、前近代においては、場合によっては死に結び付いたため、母親が母乳の出を祈願する風習が日本各地にあったことが知られている。その風習を乳信仰と呼ぶことにするが、乳信仰は病気や事故などからの守護を祈願する子安信仰に含まれて、乳の出に限定せず漠然と祈願されることもある。また、乳信仰は育児に関係する地藏信仰とも結びつき、乳房の病気に関係する薬師信仰とも関連する場合がある。さらに、安産や妊娠祈願と混在する場合もある。しかし、本研究では乳の出を願う単独の信仰に限る。

単独の乳信仰は、乳房型の石についても見られるが、それも対象とはしない。また、巨樹の乳信仰は、巨樹になると幹に瘤のようなものができるためにあり、わずかだがスギやエノキなどにもみられるが、イチョウに限る。イチョウのその瘤は気根とよばれることが多く、年月を経ると成長したものが地面に達して幹となることがある。気根が乳房を連想させるためか、民俗語彙として全国的にチチと称される。チチができるのはほとんど樹齢数百年以上の古木であり、現代では巨樹に成長している。イチョウはイチョウ科イチョウ属で、現存は1種しかないとされているが、チチができやすいタイプとできにくいタイプがあるようで、雷や暴風で幹が傷つくとチチを発生して生き残りを図る機能があると考えられるが、環境のちがいのなかかどうか、詳細は不明である。雌雄別ではチチの形成が雄木に顕著である。ギンナンが地上に落ち、発芽して幼木が密生するが、やがて消えてしまう。したがってイチョウの自然林はなく、イチョウ巨樹は寺社の境内で1～数本が見られ、人が植えたものと考えられる。現在は寺社がなくても、廃寺跡や城郭遺跡の一角にあるものと考えられ、その立地の考証も歴史的研究の一環である。中国から移入された特殊な樹種であり、民家には植えないものという認識があった。現在はだれでも知っているイチョウであるが、街路樹や大学構内の並木になっているのは明治以降の栽培による植樹であり、中国からの移入の時期や方法が問題となるが江戸時代以前はありふれた木ではなかった。

さて、本稿での乳信仰の内容は、目的はいうまでもなく母乳がよく出ることで、祈願の方法は、A. イチョウ巨樹のチチを削ってもって帰り、煎じて飲んだり粥に炊きこんで食べたりする、B. 木に向かって祈願する（木のチチをなでることもある）、C. チチに祈願や名前を書いた紙か布を結わえる、D. 木がある寺で経をあげてもらい、祈願してもらった米を炊いて食べる、E. 木に乳房状の布製のものを下げる、F. 木がある寺社に布製あるいは土製の乳房型のものを奉納して祈願する、G. チチから垂れる樹液を飲む（ただし、実際には樹液が垂れることはない）という形式である。叶ったときの礼は、ア. 何らかのかたちで米を奉納する、イ. とくにはない、ということである。

なお、最近、沢山美果子氏による『江戸の乳と子ども』が出版され、「乳銀杏」に出会われたことが書かれている（沢山2017）。

## (2) 乳信仰の資料についての課題

庶民が寺社に奉納する小絵馬には「乳しほり絵馬」と呼ばれる幾つかの類型的な絵柄の絵馬がある。若い母親のはだけた胸から器に向かって乳汁が勢いよくほとぼしり出ている図柄である。この絵馬は、イチョウの乳信仰とは重なっていないが、絵馬の説明に、「乳がこのようにほとぼしり出るようにということを祈願して奉納する絵馬」とされることが多い。

それならばなぜ赤ん坊が描かれないのだろうか。また、赤ん坊に与えるなら器に入れるようになっているのはなぜだろうか。この絵馬は、赤ん坊を失った母親が余った乳を搾っている図であり、器に入れているのは、余った乳の捨て方に関連するものと考えられる。昭和時代前半まで乳児の死亡率は減りながらも高く、生まれたばかりの子どもに死なれる母親は少なくなかった。



出典：左 福岡市立博物館 <http://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/211/index02.html>  
 右 葉の博物館 <http://www.eisai.co.jp/museum/history/b0800/0100.html>

余った母乳はどこに捨ててもいいのではなく、茶碗へ絞って木の根、ナンテンの木の根へうつす、という民俗例が知られている。そして、それは捨てるのではなく「預ける」とされる（桂1936:101）。出ない人は出るよう、余る人は預けるためという説明がある場合もある（生駒市デジタルミュージアム）が、この絵馬は、次の子どもに恵まれたときにも乳に困らないようにという祈願ではないだろうか。乳を吸う赤ん坊を抱いた母子像が描かれたものや、ほとぼしる乳を見て喜ぶ子どもなどバラエティーにとんだ図もある（岩井1974）。それらは乳の出を祈願するか、願いがかなった喜びの図柄であろう。乳を捨ててもパチが当たらずに次の子どもが生まれたときにも恵まれるようにというイチョウの乳信仰があるかもしれないと考えていたが、じっさいに、香川県高松市岩部八幡神社では、神社の前に住む老年女性から、「預けに来た」という聞き取りを得た。つまり、ほとんど「乳の出を願う」とだけかたんに資料に表現されていることの中には、そう単純でない事実があるということに注意する必要がある。



高松市岩部八幡神社のイチョウの看板「乳を授かるように祈願」（児島撮影）

## (2) 乳銀杏伝説の文献と問題

伝説を集成した文献には「乳銀杏」が掲載されている。まず、民俗学における乳銀杏の定説として事典でとりあげられた解説をあげておく。民俗学では伝説として解釈されている。中村誠(1986)に以下のように解説されている。①埼玉県羽生市の小松神社のイチヨウについては『埼玉の伝説』(角川1957)から、樹齢800年に近い木で平家滅亡の際、平重能が小松内大臣重盛の遺骨を抱いてこの地に埋めイチヨウを植えた、チチを削り取って煎じて飲むと乳の出がよくなると伝えられ、乳房の銀杏とよんでいる、というものである。②徳島県麻植郡鴨島町(現吉野川市)の乳銀杏はやはり『阿波の伝説』(角川1957)から、気根(チチ)に紙を結び付けて祈り、社へ米1合を供えると乳の出がよくなる、御礼は米を倍返しする、とする。③青森県上北郡百石町(現おいらせ町)の大木は、慈覚大師(円仁)が諸国巡歴の際ここを訪れ、立てた杖に根が生えたもので、この木にお参りするという(角川1957)。④大分県日田郡天瀬町高塚(現日田市)の二本のイチヨウは、昔ある女がそこの地蔵堂に祈り祠前のイチヨウを削って飲めとのお告げを得て気根の樹皮を削って煎じて飲むと乳が出るようになった(郷土史蹟伝説研究会 編1932)。これらの乳信仰は「銀杏の老樹に乳の形をした気根があることから生まれた素朴な信仰のように思われる」という。



吉野川市鴨島 五所神社 (児島撮影)



おいらせ町 根岸不動のイチヨウ (児島撮影)



日田市高塚のイチヨウ 奉納物 (児島撮影)



イチヨウの間の地藏尊 (児島撮影)



チチが形成されているイチョウの名称として「乳銀杏」という名称が伝説を収録した文献や公私を問わずイチョウを紹介する看板、ホームページなどに出てくるが、それはイチョウの形状からくる一般名称であって、必ずしも乳信仰がともなっているとはいえず、安易にその名称を伏している例もある。①の前半は小松神社の由緒であって、後半の乳信仰の記述とのつながりはない。この木が誰かの墓標である可能性は高いが、その木が乳信仰の伝説になるのは、都からその地にやってきた貴族の姫や城主の妻女あるいは側室まで、階層にちがいはあるが貴種の女性自身かその乳母、貴種男性の乳母の墓標だからである。墓標以外には、高僧の杖や箸、手植えゆえに効果があるとされていた。平重盛伝説は乳信仰とつながるものではない。②は五所神社境内にあるが、木の由緒は不明で、信仰の存否や典拠も不明である。③は不動尊の祠があり、高僧の杖立て伝説がついているが信仰自体は不詳である。④は、行基伝説が伴う高塚愛宕地蔵尊の境内にある巨木で、参拝客の非常に多いところであるが、行基と乳信仰との関連は伝説になっていない。

『改訂 総合日本民俗語彙』第2巻において、「チチイチョウ」の項目では、「香川県三豊郡庄内村託間郷の大浜津の薬師堂の大銀杏も乳薬師と呼ばれ信仰を集めている〔西讃府志〕。大分県日田郡馬原村高塚の二本の大銀杏は、昔ある女が乳をこの地藏堂に祈ると夢に祠前の銀杏を削って飲めとのお告げがあつたので、樹についた乳房のような気根の樹皮を削って煎じて飲んだら乳が出るようになったという〔豊後伝説集〕。この他愛知県中島郡朝日村明地の鞆江神社境内〔同県伝説集〕、徳島県麻植郡川田村瀬津（川田町）〔郡誌〕、新潟県古志郡栖吉村の田の中の義経塚の側〔伝説の越後と佐渡後篇〕などに乳銀杏がある。」となっている。「チブサノイチョウ」という項目もあって、「長野県東筑摩郡生坂村 乳房の銀杏。長野県東筑摩郡生坂村の乳房観音の境内にある古木で、その枝葉を煎じて飲むと乳がよく出るという」とある。「乳房の銀杏」という名称はほかで見たことはないので固有名詞的であるが、「チチイチョウ」と言う名称の普遍性は注意する必要がある。要するに、民俗学におけるイチョウの乳信仰は有名ではあるが、資料の集成さえじゅうぶんではない。



三豊市託間 乳薬師のイチョウ（児島撮影）



一宮市 鞆江神社（児島撮影）

## 2. 歴史的研究の資料の展望

前述の小松神社のイチヨウを例にすると、その乳信仰は乳銀杏の信仰が広まってからの一種の流行と考えられる。神職が小枝5, 6本と糯米をふかして寒ざらしにしたものを授与し、イチヨウの枝は煎じて毎食後服用、糯米の寒ざらしは粥に入れて食べるという(埼玉県神社庁, 1986)。

信仰がある場合にはその形式をよく考える必要がある。というのは、木に祈願する心性や乳房を連想させる気根を煎じて飲むなどは素朴な信仰であろうが、そういう行動に関与した宗教者の存在や、生物であるそういう木を神木として守ってきたシステムの存在が見えてくるからである。いったいつからその信仰はあるのか、なぜそうせねばならなかったのか。その歴史的な背景を明らかにすることが求められる。年代観の問題は、樹齢についてはまったく確認できない。ふつう樹齢とされているのは、所在地の寺社の創建時を基準としているだけで、創建の時代が伝説にすぎなければ樹齢の根拠はなく、寺社よりも先にイチヨウがあるほうが多いかもしれない。

青森市浪岡の「源常林のイチヨウ」という名称で知られる木がある場所には、姥神社がある。



源常林のイチヨウ 全景(児島撮影)



チチ (児島撮影)



木の根元 姥神社 (児島撮影)

安政2年8月の調によれば姥神宮とされ、草創は文治年中に中野村の村中安全のために建立されたという伝承があるが由緒は不明で、堂社は誰がどういうわけで建てたかは不詳、しかも天保の飢饉のときから手入れがされず破壊されて無いとある（浪岡町史編集委員会2001）。この文書にはイチヨウのことは何も書かれてないが、14世紀に源常館（げんじょうたて）という城郭の遺構があり（佐藤2001）、玄上寺がここにあったことが江戸時代、天和の絵図にある（浪岡町史編集委員会2004b）。イチヨウはそれらにかかわる植樹の可能性が大きい。菅江真澄の紀行文「すみかの山」（1791）には「絃上宇兵衛の塚に植えた大銀杏の木」となっている。中世の遺跡・事績が忘れられていくにつれ、残った巨木に伝説がつく。乳信仰にかかわるのは上記に無関係な、都の姫の世話をした姥の記念の木となる（児島2016）。乳信仰のあるイチヨウのうちにはこのような変化を経ている場合が少なくないと考えている。いつからこのイチヨウに乳信仰があるのか不明だが、安政2年には姥神社となっていて、現状ではイチヨウ自体が姥神社として乳信仰の対象になっているように見える。それは寺社の境内という体裁が失われたところに立つ巨樹のふつうの在り方であるが、寺社の境内という庇護のない木の乳信仰、すなわち女性の信仰を誘導したのは、民間の女性宗教者であったと考えられる。そして乳信仰は植えられたイチヨウが巨木になってチチも形成されていたであろうが、江戸時代前半まではさかのほらないのではないだろうか。

乳信仰は乳児をもつ母親の切実な願いの現れであるが、社会的背景がある。「福井県のある女性は、娘が産して乳が出ないと、親は嫁ぎ先へ行って玄関の入り口に手をついてあやまらねばならなかったと述べている」（坪井洋文1985:445）。家制度の下で、無事に子供を育てることへのプレッシャーの現れと考えられる。

#### 【乳信仰があるイチヨウ一覧】

さまざまな情報源から集成すると、「乳イチヨウ」と称されるイチヨウの木は全国で2百本以上にのぼる。本研究ではまず、『日本産育習俗資料集成』（恩師財団母子愛育会編、第一法規出版、1997）に掲載されているイチヨウの乳信仰の記事を頼りに現地調査を行った。しかし、聞き取りの地域の人々がどここのイチヨウに行くかは必ずしも明らかではない。伝説集、自治体史、自治体ホームページ（文化財）、各種文献、インターネット検索によって得た情報のうち、現地に行って乳信仰がないと確認できたものは除いた。逆に、未確認のものは残っている。空欄は未詳である。

所在寺社	所在地	祈願の方法
<b>【青森県】</b>		
根岸不動尊	おいらせ町	B
	深浦町北小金沢	
八幡神社	十和田市大不動	B ア
姥神社	青森市浪岡	B

山寺跡	青森市宮田	A
	つがる市	B
明神 (100年前)	十和田市法量	C
	階上町道仏	B
	七戸町銀南木	B
高倉神社	鱒ヶ沢町日照田	B
	東通村大字目名	E
<b>【岩手県】</b>		
(聖福院の前身の小庵)	二戸市下斗米	G
	一戸町出ル町	B
太田八幡宮	西和賀町沢内太田	C
	花巻市東和町	B
銀杏山長泉寺	久慈市門前	A
稲荷	八幡平市松尾寄木	
<b>【秋田県】</b>		
	北秋田市前田五味堀	C
権現	藤里町藤琴	B E
嶺通山広沢寺	湯沢市稲庭町字小沢	?
吉祥院	八幡平村宮麓字小豆沢	A
銀杏山神社(古くは五社堂)	秋田県能代市二ツ井町	C E
神明社 (諏訪神社)	由利本荘市東由利	F
銀杏神社 (根本の小祠)	由利本荘市中俣	B
真山寺	仙北市西木町	B
神明社	横手市十文字町鼎	
御嶽神社? 元城神明社?	羽後町西馬音内堀廻	G
山王	平鹿郡	A
<b>【山形県】</b>		
砂川八幡神社	鶴岡市あさひむら	B
由豆佐売神社	鶴岡市湯田川	
霊輝院	庄内町三ヶ沢	B
三社宮 (熊野三所権現)	河北町谷地内館	B
<b>【宮城県】</b>		
薬師堂	田尻町大峰字薬師	
東陽寺	登米市東和町米谷	
姥神神社	仙台市宮城野区銀杏町	
秋保神社	仙台市太白区秋保町	
大光寺	柴田町船岡	B
熊野神社	登米市日根牛字午坊の沢	B
	柴田町入間田字雨乞	B
小泉不動尊 (天神)	大崎市古川小泉	竹筒に甘酒を入れ乳柱に供え祈願



箱泉寺	石巻市河南町箱清水	E
<b>【福島県】</b>		
同慶寺	南相馬市小高区	
糠田堂（中福寺）	伊達市糠田	A B
金秀寺	伊達市	現存せず
天満天神小祠	白河市大信隈戸	A
	南会津町古町字居平	B
藤巻神社	会津美里町水玉	A
<b>【栃木県】</b>		
観音寺	矢板市長井	A
野木神社	野木町大字野木	
<b>【群馬県】</b>		
浄蔵寺	太田市堀口町	A
荘田神社（諏訪神社）	沼田市井戸上町	B
	昭和村	B
<b>【茨城県】</b>		
大光寺照明院・子育て観音	鉾田市仲居	
長谷寺	坂東市長谷	
<b>【埼玉県】</b>		
八幡神社	松伏町大川戸	A
水宮神社(旧摩カ山般若院)	富士見市	
民家	都幾川町	B
長照寺	和光市新倉坂下	A
錫杖寺密厳院	吉川市高久	
高山不動	埼玉県飯能市大字高山	B
円蔵院	さいたま市見沼区中川	
峯八幡宮	川口市大字峯	A
小松神社	羽生市小松	A
<b>【千葉県】</b>		
熊野神社	市原市金剛地	A
菊間八幡神社（若宮神社）	市原市八幡	
高照寺	勝浦市	D
稲荷神社	横芝光町木戸台	
西福寺	白井市谷田	A
千葉寺	千葉市中央区千葉寺	A
川尻観音	木更津市	A
<b>【東京都】</b>		
善福寺	港区麻布	B
スサノオ神社	荒川区南千住	A
正覚院	足立区花畑	A

大国魂神社	府中市	
安養寺・古川薬師	大田区西六郷	根本の水を飲む
石神社	青梅市二俣尾	
	東京都奥多摩町安寺沢	
<b>【神奈川県】</b>		
影向寺	川崎市	A
長王寺	横浜市都筑区	
八幡東明寺廃寺・神明社	横浜市都筑区川和町	A
常倫寺	横浜市鶴見区	
	横浜市瀬谷区	
福泉寺	横浜市旭区	
勝福寺	小田原市飯泉	
海南神社	三浦市	B
<b>【静岡県】</b>		
村山浅間神社	静岡県	
銀杏地藏	富士市	
黒田の本光寺	富士宮市大宮	
大泉寺	沼津市浮島?原町	B
永明寺	西伊豆町宇久須	C
益山寺	伊豆市堀切	
千葉山智満寺	島田市千葉	B
法華寺	焼津市花沢	
<b>【長野県】</b>		
徳運寺・千手観音堂	松本市	
正永寺?	飯田市	
銀杏三宝大荒神	飯山市瑞穂	
雲龍寺乳房観音堂	生坂村小立野	
観音堂・円通殿	大鹿村鹿塩	A
金比羅社	長野市吉田	A
<b>【新潟県】</b>		
西生寺	長岡市寺泊野積	A
福道神社	長岡市寺泊	A
栖吉神社	長岡市	A
妙高寺	小千谷市川井	
慈光寺。樹下に乳房権現	五泉市蛭野	A
観音堂	五泉市切畑	A
<b>【愛知県】</b>		
神明神社	豊田市時瀬町仲切	A
靱江神社	一宮市明地靱 24	A
<b>【岐阜県】</b>		

神明神社	各務原市川島北山町	B
国分寺	高山市総和町	A
<b>【富山県】</b>		
上日寺	氷見市朝日本町	A F
<b>【福井県】</b>		
白山神社奥院薬師堂	勝山市野向町薬師神谷	A
金山彦神社	敦賀市金山	A
日枝神社	大井町名田庄西谷 10-21	
子安観音堂	鯖江市上戸口町三峰	B
<b>【滋賀県】</b>		
諏訪神社	米原市上板並	B
白山神社	米原町曲谷	
春日神社	東近江市杠葉尾町	
<b>【京都府】</b>		
寺領観音堂	伊根町字野村笠山 167-4	
<b>【奈良県】</b>		
葛城一言主神社	御所市森脇字角田 432	B
<b>【兵庫県】</b>		
医王寺	篠山市北村	ギンナン（乳の滴）を食べる
常滝寺	丹波市青垣町大名草	
大生部兵主神社	豊岡市担東町薬王寺	A
青玉神社	多可町加美区鳥羽（とりま）	E
乳の木庵	朝来市和田山町殿	B
<b>【和歌山県】</b>		
光泉寺	古座町三尾川	B D
<b>【鳥取県】</b>		
仁王堂	八頭町西御門字山手屋敷	B
<b>【徳島県】</b>		
五所神社	吉野川市鴨島	C ア
	阿波市市場町大影	B ア
乳保神社	上板町瀬部	C
大宮八幡	佐那河内村下	
銀杏山万福寺	神山町神領字大久保	C
	三好市上名	E
寿命院 乳薬師	三豊市詫間町	B
<b>【香川県】</b>		
岩部八幡神社	高松市塩江町安原	B
<b>【愛媛県】</b>		
三島神社	内子町中川	
広瀬神社	内子町本川	

東光寺	松野町蔵生	
三滝神社	城川町窪野	
出海神社	大洲市長浜町出海	
<b>【高知県】</b>		
根元に小祠	中土佐町上の加江笹場	
八畝観音堂	高知県長岡郡大豊町八畝	
地藏寺	土佐町地藏寺 3078	
<b>【福岡県】</b>		
八剣神社大イチョウ	水巻町	F
	直方市植木花の木	
垂乳根薬師	那珂川町大字五ヶ山	B
<b>【大分県】</b>		
薬師如来堂	別府市大字内成	A
	九重町松木	A
愛宕地藏尊	日田市天瀬町馬原字高塚	A F
椎屋神社	宇佐市院内町西椎屋	A
妻垣神社	安心院町	A ?
熊野神社 (台神社)	日田市天瀬町女子畑	B
<b>【熊本県】</b>		
瀬目八坂神社	五木村	B
	小国町下城	A
	阿蘇市波野大字波野檜木野	甘酒を供える



多可町青玉神社  
木につり下げられた布の乳型 (児島撮影)



朝来市乳ノ木庵のイチョウ (児島撮影)

#### 【参考文献】

岩井宏美1974『絵馬』(ものと人間文化史 12)法政大学出版社

児島恭子2016a「日本の照葉樹林帯における巨木文化」山口裕文, 金子務, 大形徹, 大野朋子編著『「中尾佐助照葉樹林文化論」の展開』北海道大学出版会

児島恭子2016b「イチョウ巨樹の信仰」日本北方圏域文化研究会報告書編集委員会編『東北・北海道のイチョウ:



- イチョウの生物学的・文化的神秘を探る』秋田文化出版  
中村誠1986 項目「乳銀杏」乾克己他編『日本伝奇伝説大事典』角川書店  
浪岡町史編集委員会2001『浪岡町史 資料編別巻Ⅰ』浪岡町  
浪岡町史編集委員会2004『浪岡町史 第2巻』浪岡町  
桂又三郎1936『岡山県妊娠出産習俗』奥山書房  
郷土史蹟伝説研究会編1932『増補 豊後伝説集』郷土史蹟伝説研究会  
埼玉県神社庁 1986『埼玉の神社 入間・北埼玉・秩父』  
佐藤仁2001「源常・中野・五本松—東根道北辺の諸問題」『浪岡町史研究年報』Ⅳ  
沢山美果子2017『江戸の乳と子ども』吉川弘文館  
坪井洋文1985『日本民俗文化大系10 家と女性』小学館  
柳田国男1981「神樹篇」『定本柳田国男集 11』筑摩書房  
柳田国男監修 民俗学研究所編著1970『改訂 総合日本民俗語彙 第2巻(クーチ)』平凡社

【本研究はJSPS 科研費JP15K02838の助成をうけたものです。】

(こじま きょうこ 札幌学院大学人文学部教授 日本史専攻)